

干し柿作りでつながる地域の輪

1. 目的と経緯

本園では「あそび」と「祈り」を教育理念とし、日々の生活や散歩の中で出会う人や自然を大切にしている保育を行っています。本事例では、干し柿作りを通して、地域の方々との関わりが子どもたちの学びへとつながった様子を報告します。

2. 内容

年長児は、今年で3回目となる干し柿作りに取り組みました。柿は、散歩の途中で通りかかる道沿いの柿の木から、3年間分けていただけてきました。今年が最後の年となることをきっかけに、子どもたちと「ありがとうを伝えよう」ということになり、みんなで書いたお手紙と完成した干し柿を持ってお礼に伺いました。



また、収穫の際には、以前交流のあった校長先生に偶然出会い、高い場所の柿を取るお手伝いをしていただきました。子どもたちはそのことを思い出し、感謝の気持ちを込めて校長先生へも手紙と干し柿を届けに行きました。

訪問時にはお兄さんお姉さんと一緒に、しっぽとりゲームをしてあそぶ時間が生まれ、自然な形で交流が広がりました。



3. 成果と課題

干し柿作りを通して、子どもたちは地域の方々との関わりを身近に感じ、「感謝の気持ちを伝える」経験を積むことができました。また、お兄さんお姉さんとの関わりを通して、憧れや社会性が育つ姿も見られました。

一方で、交流が偶然に支えられる場面も多く、今後は無理のない形で交流の機会を積み重ねていけると良いと思います。

身近な生活体験から生まれた活動が、地域とのつながりへと広がる貴重な機会となりました。今後も、子どもたちの気づきや思いを大切にしながら、地域に見守られ育つ保育を続けていきたいと考えています。